

# コンポストで地域と資源の循環計画！

by くらしゴト Labo



## なぜこのテーマに取り組むことにしたのか

日本全国で私たちが出す「生ゴミ」は年間推計で約 2,842 万トン。一般廃棄物の約 40% を占め、その内訳は約 70% が食品産業から、残り約 30% が家庭からの排出と言われている。そのほとんどは焼却処分されるが、約 80% が水分である生ごみは燃えにくく、焼却には生ごみ 1 トンあたり 760 リットルの助燃剤(重油)が使用されている。日本全体で 6000 億円のコストがかけられており、エネルギー効率が悪く環境負荷が高いという問題を抱えている。

ゴミをゴミとして捨てるのではなく、循環して「資源」として活かすことで、環境への負荷を減らすことになる。また、コンポストを展開していく中で、様々な問題を共に解決していく仲間、堆肥を受け入れる農家、その堆肥で育った野菜を購入する市民と横のつながりも広がっていくことができれば、地域と資源の循環という素晴らしいサイクルができるのではないかと考える。以上の目標達成のため今年度は以下の 4 つの事業を行った。

## ① 夏休みコンポストワークショップ

「ボンボンマルシェ」でのイベントとして出店。生ゴミの現状やコンポストの仕組み、世界のゴミ事情などのお話の後、プランターで作るキエーロを制作。半年間その使い心地を試してもらった。

日 時：8月21日(日) 場 所：亀岡市役所市民ホール(ボンボンマルシェ)  
参加者：8組の親子や家族連れ、コンポストのお話だけ聞かれた方5名  
講 師：原田禎夫さん(NPO 法人プロジェクト保津川代表)

## ② 夏のコンポストワークショップ

「みんなで作る環境フェスティバル」でのイベントとして出店。生ゴミの現状やコンポストの仕組み、世界のゴミ事情などのお話の後、プランターで作るキエーロを制作。半年間その使い心地を試してもらった。

日 時：8月28日(日) 場 所：亀岡市役所開かれたアトリエ(みんなで作る環境フェスティバル)  
参加者：7組の親子や家族連れ、大阪商業大学の学生4名  
講 師：原田禎夫さん(NPO 法人プロジェクト保津川代表)

## ③ 冬のコンポストワークショップ

生ゴミの現状やコンポストの仕組み、冬のコンポストのコツなどのお話、プラごみなど環境についての話の後、段ボールで作るコンポストを制作。2ヶ月間その使い心地を試してもらった。

日 時：12月18日(日) 場 所：ガレリアかめおか工作室  
参加者：3名 講 師：原田禎夫さん(NPO 法人プロジェクト保津川代表)

## ④ 春のコンポストワークショップ

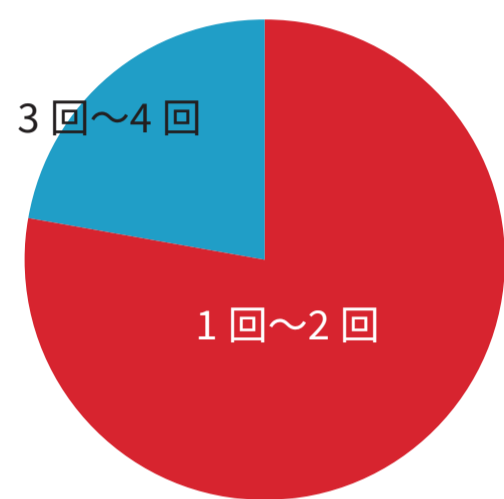
「みんなで作る環境フェスティバル」でのイベントとして出店。生ゴミの現状やコンポストの仕組み、世界のゴミ事情などのお話、保津川の筏流しや川のゴミのお話の後、プランターで作るキエーロを制作。初めてイラストを描いてもらう試みをした

日 時：3月18日(土) 場 所：場 所：亀岡市役所開かれたアトリエ(みんなで作る環境フェスティバル)  
参加者：5組の親子や家族連れ、京都先端科学大学の学生4名  
講 師：原田禎夫さん(NPO 法人プロジェクト保津川代表)

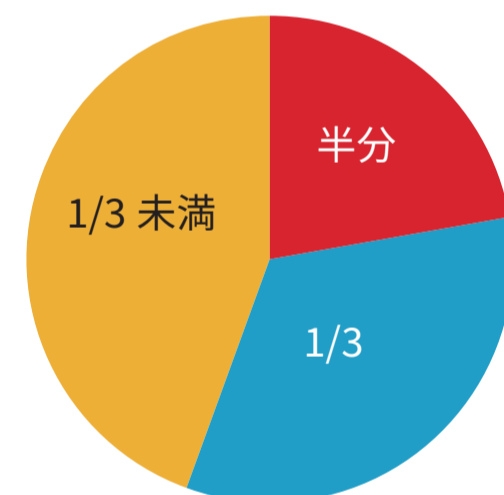


## モニタリングアンケート

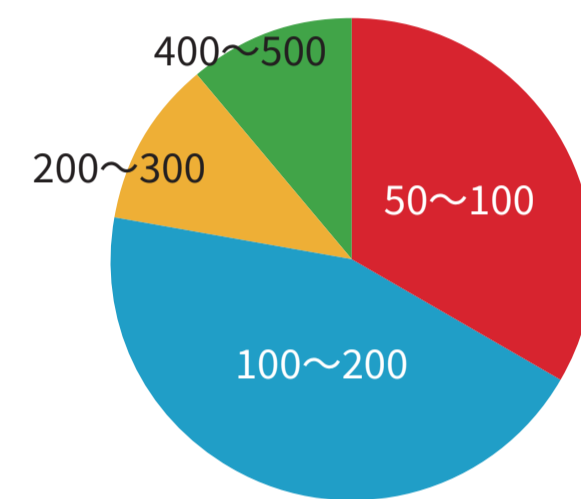
1週間で生ゴミを何回くらい投入していますか？



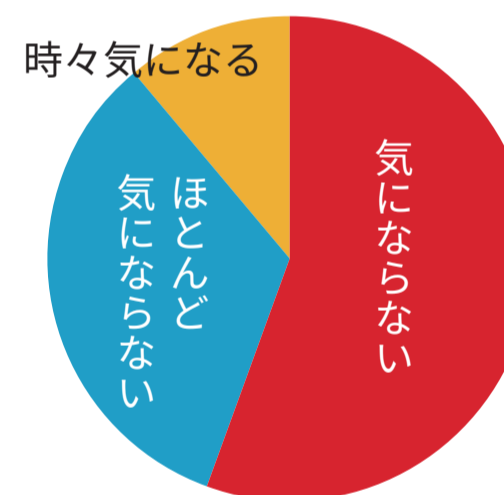
家庭から出る生ゴミのうちどのくらいの量をコンポストで処理していますか？



1回で何gの生ゴミを投入していますか？



埋めた後に生ゴミの匂いは気になりましたか？



コンポストを使用しての感想はいかがですか？

- 夏場は分解が早くて良かったけど、冬場はあまりに遅くて、スペースが足りない。でも、その分生ゴミの発生そのものを減らす工夫をするようになったので、ある意味エコかも...
- キットのおかげで始めやすかったですが、釘打ちに慣れていないので組み立てるのはなかなか大変でした。黒土も手に入れたのが良かったです。でも生ゴミを埋めるのが楽しいようで、子供も興味を持って手伝ってくれます。私も生ゴミが消えるのが面白いし、やりがいがあるので続けていきたいです。寒い時期は分解が止まってしまう、ゴミを埋められない日が続きましたが、暖かくなるのが楽しみです。見た目も普通のコンポストよりかわいいで気に入っています。
- これを自分で制作することは難しいので、使ったものを気軽に購入できて、誰もが生ゴミはゴミでないという認識になっていけば嬉しいと思いました。
- キエーロを使いたいと思っていたときに、作る機会がありとても嬉しかったです。ただ、サイズ感がうちの家には小さく、もう少し大きいのがもう一つあれば分解がうまく行きそうです。
- たくさん量は処理できないのですが手軽でいいと思います

## 気づきと反省点、今後への課題

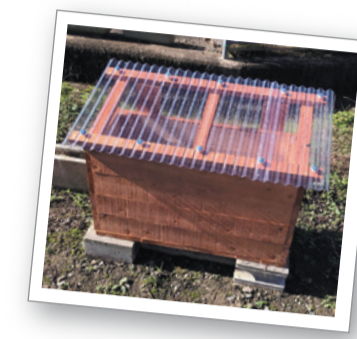
イベントでの出店では飛び入り参加もあり好評だった。今回、ダンボールコンポストの基材は市販の腐葉土を考えていたが、亀岡オーガニックアクションの方たちと繋がったことから亀岡らしい理想の基材を手に入れることができたのは大きな成果であった。亀岡独自の基材の開発も進めていきたいし、これをもっと広げていき、農家さんにつながる方向へ持っていきたいと思う。無機質なプランターのキエーロに自分でイラストを描くことでオリジナリティを出すのも子どもたちに好評だった。楽しくコンポストを始める1歩目には最適だと思う。

冬のコンポスト WS は夏のイベントに参加した人のフォロー講座の意味合いに重点を置いていたが、参加者が少なく残念であった。開催時期の改善が必要。LINE で立ち上げた「くらしゴトコンポスト部」は現在5名の部員で活動中。色々意見を出し合える場にしていきたい。モニターアンケートでもコンポストは概ね好評ではあったので、きちんと適正価格で継続できる販売ができるよう仕組みを作っていきたい。



## キエーロの使い方

臭いや虫が心配なコンポストですが、ちょっとしたコツさえ掴めば、面白く続けることができます。自分のペースで楽しんでやっていきましょう♪



### 1 特徴

- 形状は、天板を透明にし日光を入れることにより内部の温度を上げ、天板に傾斜をつけることでできた隙間から空気を取り込み、バクテリアの働きを高める構造をしている。
- 黒土中にいるバクテリアが生ごみを分解するので、**中身がほぼ増えない!**
- 土の中に生ごみを埋めるので、虫や臭いが発生しにくい。
- 天ぶら油の廃油、汁物の残り汁なども投入可能。

### 2 使い方

- 設置場所を決める**  
なるべく日当たりがよく、風通しの良い場所がおすすめです。
- 使用するものを用意する**  
黒土 60ℓほど、スコップ、目印になる棒、蓋のある容器(キッチンで生ゴミを貯めておく用) など
- キエーロに生ゴミを入れる**  
20cm ほど穴を掘り、生ゴミを入れて周りの土と混ぜます。水分が少ない場合は水を入れます。
- 生ゴミを入れ終えたら**  
乾いた黒土を生ゴミを入れた穴にかぶせて完全に覆います。(虫や臭いの発生が防げます)
- 繰り返し利用する**  
埋める場所を変えながら上記 3.~4. を繰り返し行います。500g 程のゴミで 2ヶ所〜4ヶ所ほど(土の総量による) 入れられます。



### 3 投入物の注意

- 基本的に人間が食べるものは分解されますが、一部分解がされにくいものやできないものがあります。  
**分解されにくいもの**：繊維質が多い野菜の皮  
**分解されないもの**：動物の骨、貝殻、玉ねぎの黄色い外皮、梅干しなどの種子、食べ物以外のもの

分解されるまで**夏場は5日**、**冬場は2週間**ほどかかります。

### ワンポイント!

- 土内部に空気が良く入るように混ぜる。
- 天ぶら油の廃油を入れると、バクテリアの働きが活発になる。
- 投入物を細かくしたり、熱を通すと分解されやすくなります。
- 冬場は消滅まで日数がかかりますが、分解されます。



## 「亀岡」が詰まったダンボールコンポスト くるりんぼすと

ダンボールコンポストに使用する基材は食と農を通して暮らしやすいまちづくりを目指している「亀岡オーガニックアクション」の農家さんたちを中心とした中熟堆肥。亀岡市内の公園や学校、街路樹の落ち葉や刈草をベースに米ぬか、三雄産業さんの焼酎粕なども入っています。基材を入れる麻袋は小川珈琲さんからの提供。これまで捨てられていたものを大切な資源として有効活用していきます。

